

KOBELCO

KOBELCO

秋季号

Nov.2022 Vol.258

# コベルコ建設機械ニュース

特集 新社長就任 PREMIUM TALK  
未曾有の変化に応える  
創意工夫を追求

コベルコ建設機械 ニュース

Nov.2022 Vol.258 秋季号

〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 コベルコニュース編集部 ☎03-5789-2117

www.kobelco-kenki.co.jp

コベルコ建機株式会社



## クレーンに関わるすべての人のために。

輸送性、組立性など、コベルコ建機のクレーンに継承されるDNAをさらに進化させると同時に、さまざまな新機能を搭載。人に寄り添い、人を中心に考えて生み出した次世代クレーンです。

■ 最大定格総荷重 200t×5.0m

ヒューマンコンセプト・クレーン

# Mastertech 7200G NEO

コベルコ建機株式会社 東京本社 / 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 Tel: 03-5789-2111 www.kobelco-kenki.co.jp

■ クレーンの販売・サービス拠点  
北海道 Tel: 011-788-2382 / 東北 Tel: 0223-24-1482 / 関東 Tel: 045-834-9992 / 北陸 Tel: 076-274-1218  
東海 Tel: 052-603-1205 / 近畿 Tel: 06-6414-2103 / 中四国 Tel: 082-810-3880 / 九州 Tel: 092-410-3035

# 未曾有の変化に 대응

## PREMIUM TALK

コベルコ建機  
代表取締役社長

フリーアナウンサー

山本明 × 馬場典子さん

2022年6月、コベルコ建機の新たな代表取締役社長に  
山本明が就任いたしました。

社会変化がますます加速度的に進む時代、  
社会インフラ整備に不可欠な建設機械メーカーとして、  
コベルコ建機が担うべきミッションは一層重大になっています。  
そんな状況下で、舵を取る新社長の基本姿勢や戦略について、  
フリーアナウンサーの馬場典子さんがインタビューしました。

太田利之 = 取材・文 三浦伸一 = 撮影  
text by Toshiyuki Ota / photographs by Shinichi Miura



# 創意工夫を追求



コベルコ建機  
代表取締役社長

山本明

1987年大阪大学大学院工学  
研究科金属材料工学専攻修士  
課程修了。同年4月、株式会  
社神戸製鋼所に入社し、溶接  
事業部門企画管理部長兼溶接  
事業部門企画管理部システム  
室長などを歴任。2015年4  
月同執行役員、17年4月同常  
務執行役員、20年4月専務  
執行役員を経て、22年6月コ  
ベルコ建機株式会社 代表取  
締役社長に就任

知見やノウハウを総動員した  
高品質なソリューション提供を

馬場：ご就任おめでとうございます。  
早速ですが、新社長として大切に  
おられるものはなんですか。

山本：就任直後から、国内の製造現場  
をまわってきました。製造業の基本は  
現場ですから、現場のマインドを大切  
に、より働きやすい環境づくりを進め  
ていきたいのです。同様に、コベルコ  
建機のお客様の事業基盤も現場にあ  
ります。そんな現場の声に耳を傾け、常  
に良き伴走者でありたいと考えていま  
す。

馬場：神戸製鋼では長年、溶接事業に  
携わってこられたそうですが、その経  
験や知見は、コベルコ建機の中でど  
のように生きてくるのでしょうか。

山本：建設現場では、例えばH形鋼や  
角パイプ、鋼板、鉄筋などを溶接する  
ことが多く、それが建造物の強度を左  
右する大きな要素にもなっています。  
ここでも、神戸製鋼で育んできた知見  
が、役に立てられるかもしれません。  
さらに溶接のみならず、神戸製鋼が長  
年培ってきた多くの知見やノウハウ  
を、お客様の現場のお悩みを解決する  
ソリューションとしてご提供してい  
きたいと考えています。建機や土木建設  
の周辺情報はもちろん、より広範なソ  
リューションによって、お客様の施工  
精度や生産性の向上、効率的な経営を

支援することができる——。それこそ  
が、コベルコ建機ならではの強みであ  
り、高付加価値戦略の要であると自負  
しています。

馬場：今後さらに優れた製品に有益な  
ソリューションを添えてご提供してい  
きたい、ということですね。

山本：その通りです。私たちの経営の  
柱となるのは品質です。ここで言う品  
質とは、製品と企業姿勢の双方に貫か  
れた確かな価値の基軸です。優れた製  
品や価値のあるソリューションの提供  
と同時に、社員一人ひとりが日々責任  
をもって行動することで、「社会に必  
要とされる企業」としての質と品格を  
磨いていきたいのです。

ICT戦略への取り組みが  
次代を制す

馬場：変化が著しい時代の中で、お客

様から求められる価値もめまぐるしく  
移り変わっていきますね。

山本：コロナ禍、気候変動とそれに起  
因する環境破壊、世界のパワーバラン  
スの変化など、私たちはまさに未曾有  
の事態に直面しています。こうした局  
面では、常に「何が求められているの  
か」という優先順位を意識した対応が  
大切です。いまや、一社のリソースだ  
けで変化が激しい時代のニーズにすべ  
てお応えすることは困難です。サプラ  
イヤーや協力会社、さらに独自技術を  
有する広範な企業群とのアライアンス  
を深め、モノづくりから販売、維持管  
理・サポートまでを一気通貫させた、  
バリューチェーン全体をカバーする新  
たなパートナーシップの強化を進めて  
いきます。

馬場：建設業界でも、時間外労働の上  
限規制の適用など、働き方改革に向か  
う「2024年問題」が大きな課題となっ  
ていますね。

山本：ご指摘のように「人材不足」と「長  
時間労働」が、建設業界の大きな課題  
でした。この問題へのソリューション  
としては、DXやロボット、AIなどの  
ICT活用が重要なポイントとなるで  
しょう。いずれにしても、その核とな  
るキーワードは、「楽に、楽しく働く  
ことができる環境整備」だと思います。

馬場：たしかに情報化は、高齢化の進  
行による人材不足対策、技術承継など  
の課題に大きな福音をもたらしてくれ

フリーアナウンサー

馬場典子さん

1997年早稲田大学商学部卒  
業。同年日本テレビにアナウ  
ンサーとして入社し、局を代  
表する数々の番組のレギュ  
ラー司会など、報道からバラ  
エティ、スポーツまで幅広く  
担当。2014年に日本テレビ  
を退社し、フリーアナウン  
サーとして活躍中。15年4月  
より大阪芸術大学放送学科ア  
ナウンスコース教授





そうですね。

**山本：**少子高齢化が加速する中で、今後さらに女性や外国の方の活躍への期待も膨らんでいきます。ここでは、直感的なインターフェースや操作性のもとに、より楽に誰もが高精度で安全な施工を実現できる環境整備が重要なポイントです。一度ショベルの操縦席にお座りいただければ分かりますが、レバーやペダル類がたくさん並んでいて、それだけでかなり悩ましく、敷居が高くて近づき難い(笑)。そこで当社は2017年、簡単なワンレバーの操作だけで、3次元データに沿って設計面通りの正確な施工を実現する3Dマシンコントロール「ホルナビ+PLUS」をリリースしました。熟練オペレータの操作技術がワンレバーで実現するので、新人教育期間や実戦力化のリードタイムが大幅に圧縮されます。さらに、ベテランの方にお使いいただければ、一層の工期短縮などが望めます。

**DX構想が着々と新機能に結実**

**馬場：**工事の効率化や省力化もさるこ

とながら、安全性の確保は非常に重要な要素ですね。

**山本：**はい。現場で何よりも優先されるべきは「安全」なんです。建設事故の約6割は「挟まれ」と「轢かれ」です。そこでコベルコ建機は17年に、業界に先駆けて衝突軽減システム「K-EYE PRO」をリリースしました。これは、ショベル周辺で人や障害物を検知すると、機械が自動で減速・停止するという画期的な新技術です。

**馬場：**とはいえ、大規模公共工事ではICT活用がすでに9割以上の割合で普及している一方で、施工規模が小さな案件ではまだ実施率が低いと伺っています。実際は、小さな案件を担う会社ほど人手不足がより切実で、ICT化が必要な気もしますが……。

**山本：**その通りです。だからこそ、ICTの恩恵を享受していただきたいのです。ところが、「ICT導入を牽引する人材がない」「初期投資の負荷が大きい」といった事情が、取り組みへのネックになっていることが多いのです。そこで、まず着手できることから始めて、企業の成長に合わせて徐々

に拡大を図る姿勢を意識していただきたいと思います。そんなロードマップ策定においても、私たちがお客様ごとに最適なソリューションをご提供していきたいと思います。自社の実状や経営計画に即しながら、できるだけ早期に、柔軟な導入を図っていただきたいですね。

**馬場：**先ほど女性の活躍への期待というお話が出ました。現場のロケーションに縛られることなく、居ながらにして各現場での施工が可能となる「建設現場のテレワーク化」も、働き方改革を大きく加速させてくれるものだと思います。育児や介護など、現場に向くことができない事情をお持ちの方にも活躍の機会が広がるのは魅力的ですね。

**山本：**テレワークの支援策としては、油圧ショベルの遠隔操作システム「K-DIVE CONCEPT」を、22年度下期に市場投入予定です。建設現場のテレワーク化は、現場間移動などに多くの時間や労力を割かれていた人たちの働き方や、生活パターンを大きく変えてくれます。また馬場さんがおっしゃったように、建設現場で働くことができなかった多様な人たちにも門戸を開き、活力ある人材活用の実現を後押しします。さらに現場を無人化することによって、根本的な安全確保もできます。

**馬場：**一方、ショベルに比べてクレーンはICT化が難しいと聞きますが……。

**山本：**生産性向上を狙い国土交通省が2025年度までにBIMを活用した

3D施工計画を必須化しました。建築現場ではクレーンが活躍していますが、BIMでクレーンの施工計画を行うにあたり生産性を上げる仕組みが存在していませんでした。しかし当社は、建機メーカーの強みを活かし「K-D2 PLANNER」を販売しました。これは、煩雑な3Dモデルの入力作業を介さず、マウスでクレーンの位置やつり荷の位置を指定するだけで、クレーンの姿勢を反映するシミュレーションが実現でき、スムーズなクレーン施工計画策定を支援するシステムです。

### 全社のパワーを お客様メリットの追求に集中

**馬場：**昨今は製品(モノ)、ソリューション(コト)の提供と併せて、ストックビジネスにも力を入れておられますね。

**山本：**生産財である建機が現場で停止することは、工期にも直接影響し、重大な機会損失を招きかねません。そこで、お客様のマシンを遠隔から見つめ、不具合などの兆候を未然にチェックし、さらに稼働時間などからパーツの交換時期をお知らせするなど、大事に至る前の予防保全的な見守りを徹底しています。また、最先端の設備を導入した部品供給拠点、東条パーツロジセンターの本格稼働が始まっています。十分な在庫のもと、すぐに必要なパー

ツをお届けする体勢を整えています。**馬場：**お客様へのサービスを言い換えれば、悩みごとへの的確な解答、ということになりそうですね。

**山本：**その意味では、お客様のお困りごとはまだまだ潜在しているはずなのです。それらをしっかりと捉え、フォローしていくことが私たちの使命だと考えています。それこそが、今後のソリューション形成や開発の源泉でもあるのです。私たちが、今後とも「必要とされる会社」であり続けるためには、日々お客様との接点の最前線を担っている営業担当者やサービス担当者が、現場のリアルな声をどれだけキャッチできるかがとても重要です。

**馬場：**社員の皆さんが日々の発見や意見を自由にエスカレーションしやすい社内文化形成や仕組みづくりも、社長の大切なお仕事になりそうですね。

**山本：**新たなアイデアやシステムは、

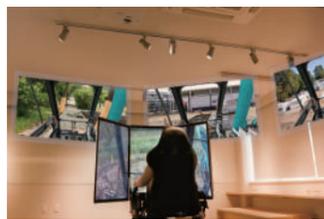
決して無から生まれるものではなく、潜在化していた情報を顕在化し、相互に組み合わせる中から生まれるものだと思います。だからこそ、お客様メリットの追求を基軸に、組織間の壁を越えた横断的で自由な議論を繰り返していきたいですね。部門ごとに閉じられがちな情報をつまびらかにして、全体最適の視点で統合していきたいと思っています。さらに、社内の知見資産の透明度や流通性を高め、相互に刺激し合う文化の醸成を進めていきたいですね。今後、働き方改革の進行で生まれるゆとりの時間を「創造」に振り向け、グループ一丸となって、お客様の「より楽で、楽しい仕事環境づくり」のお手伝いをしていきたいと願っております。

**馬場：**コベルコ建機から目が離せませんね。今日は貴重なお話をありがとうございました。

## ■ ICT化を促進させるコベルコ建機の取り組み

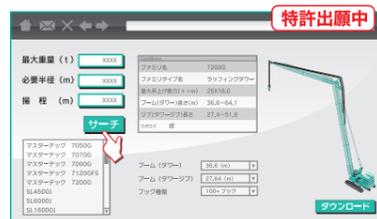
### K-DIVE CONCEPT

建設機械の遠隔操作とクラウドマッチングシステムを融合させた「建設現場のテレワーク化」を目指すシステム



### K-D2 PLANNER

クレーン施工計画に貢献する建機メーカーならではのアドオン型シミュレーションソフト



みどうすじ  
御堂筋〔大阪府〕

# 次なる時代を迎える 大阪の大動脈

大阪市を代表する2つの繁華街「梅田」と「難波」をつなぐメインストリート。沿道には、大阪市庁舎をはじめ、関西を代表する企業や銀行のビル、百貨店や高級ブランドショップなどが立ち並ぶ。都市機能を支えるこの大幹線道路は、側道を含め6車線、側道のない場所では最大8車線が北から南へ向かう一方通行だが、近い将来、通りから車が消え、全面的に歩行者道路になるという。今、御堂筋に何が起きているのか。

砂山幹博 = 取材・文 田中勝明 = 撮影  
text by Mikihito Sunayama / photographs by Katsuaki Tanaka

歴史的  
建造物誕生の  
秘密を探る！

File.61

## 常識を超えた都市計画

多くの楽曲にも歌われていることから、大阪以外の人にも広く知られる「御堂筋」。正式には、国道25号と国道176号のうち阪急前交差点（大阪市北区）から難波西口交差点（大阪市中央区）に至る区間で、その名は愛称として定着した。

16世紀末の大阪城（当時は大坂城）築城以来、大阪では東西の主要動線を「通り」、南北を通る道を「筋」と呼んだ。筋に沿って北御堂（浄土真宗本願寺津村別院）と南御堂（真宗大谷派難波別院）があったため、「御堂筋」と呼ばれるようになったというのが通説だ。筋は通りに比べ幅の狭い道だったようで、御堂筋も大正時代までは、全長1.3km、幅6mほどの狭い裏道にすぎなかった。

この細道に、延伸・拡幅の計画が持ち上がったのは1921年のこと。人口が増加しつつあった大阪市は、都市インフラに関わるさまざまな問題を解決する計画を進めようとしていた。その1つが、やがて車社会の到来で予測さ

れる交通渋滞緩和のための幹線道路の整備だった。この計画を強力に推進したのが、都市計画の権威で後に「大阪の父」と呼ばれる関一だ。

1923年に大阪市長に就任した関は、次代の大阪を見据えた「都市大改造計画」を打ち出し、中核をなす事業として御堂筋の拡幅工事を掲げた。

当時、すでに大阪の南北を貫くメインストリートの堺筋があったにもかかわらず、その西側の裏通りにすぎなかった御堂筋に着目したのだ。

工事の内容は、旧国鉄大阪駅前から南海電鉄難波駅前に至る約4.2km、いわゆる梅田と難波の二大ターミナルを結び、道幅を44mに拡幅。さらに道路の下に地下鉄を走らせ、新たな大動脈をつくるというものだった。幅22mの堺筋にさえ車がそれほど走っていない時代に、倍の広さの道路がなぜ必要なのかと市民は訝しんだ。工事計画を聞いた市議会議員からも「飛行場でもつくる気か」とヤジが飛んだという。関市長の構想はそれほどまでに常識では考えられないものだった。

## 次代を見据えたまちづくり

もともとあった道幅を7倍以上に広げ、さらに地下鉄工事を伴う御堂筋の拡幅工事には、莫大な費用が見込まれた。国からの援助も世界恐慌や関東大震災の影響で当てにならない中、沿道の住民には立ち退き料を支払わなければならなかった。この財政難を乗り切るために関市長が考えたのが、受益者負担金の制度だ。新しい御堂筋ができることで沿道の市民がどれだけの恩恵を受けるかを算出し、その額に応じた税金を前もって納めてもらうというものだ。

幾多の困難を克服して1926年に着工。11年もの歳月をかけて1937年5月10日に開通を迎えた御堂筋に、かつての狭い裏道の面影はなかった。

次代を見据えた都市計画は、景観にも配慮されていた。ゆったりとした開放感のある道路に沿って、淀屋橋の南から難波までの間に約800本のイチョウが、大江橋の北から梅田にはプラタナスが植えられた（後にイチョウに変

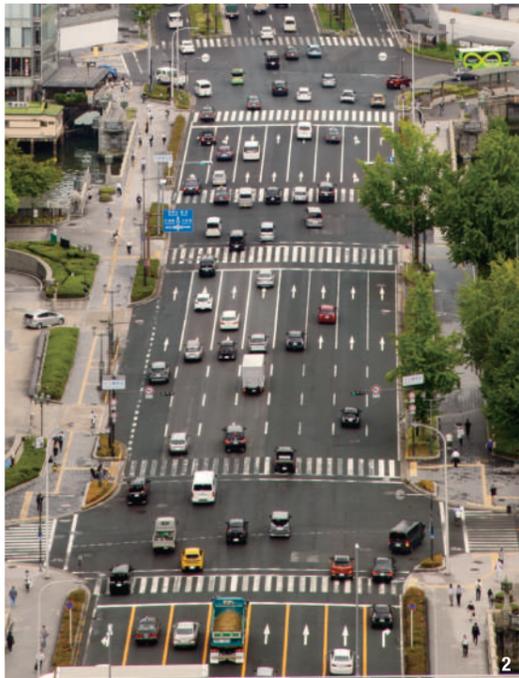
### ■御堂筋略図



経済と文化活動の中心であり、洗練された景観を併せ持つ大阪の顔と呼ぶにふさわしいメインストリートだ（撮影協力：大阪エクセルホテル東急）



1.近代大阪を象徴する歴史的景観として2000年に大阪市指定文化財となった「御堂筋銀杏並木」(写真提供：大阪市建設局) 2.約130万個のLEDが並木を彩るイルミネーションは冬の風物詩



1.淀屋橋以南の御堂筋には、4車線道路の両側に緑地帯と側道が設けられている 2.梅田から淀屋橋までは側道と緑地帯がなく、6(最大8)車線の道路が続く



1.沿道には国内外の有名作家による人体彫刻29体が展示。屋外アートが楽しめる彫刻ストリートでもある 2.2022年4月、淀屋橋の商業施設前の歩道上に歩行者の休憩施設「パークレット」を期間限定で設置。にぎわいと憩いの空間を目指す取り組みの一環だ

File.61 歴史的建造物誕生の秘密を探る!



1.2025年までに、難波-長堀通り間の側道と緑地帯をなくし、歩行者空間化するプランが進行中だ 2.ゆくゆくは全車線を廃止して完全歩道化を目指すという 3.工事が先行していたエリアですすでに側道1車線が、歩道と自転車通行空間に生まれ変わっている(道頓堀川東側)

更)。電柱は完全地中化、沿道に建つビルには高さを百尺(約31m)に揃える制限が設けられ、ビルの軒先が規律よく揃う美しい街並みが生まれた。 開通前には、受益者負担金で物議を醸したが、高度経済成長に後押しされ、沿道には金融街が形成され、薬種商や繊維問屋が軒を連ね、関市長の予測通りに御堂筋は大きな経済効果を生み出す大動脈となった。 御堂筋完成から約30年後の昭和40年代には、空前のマイカーブームが到来。広大な道幅を誇る御堂筋でも交通混雑が深刻化した。こうした状況を踏まえ、1970年の大阪万博を機に他の幹線道路とともに御堂筋は双方向通行か

ら一方通行に切り替わり、ほぼ今の形となった。 次なる時代の姿とは にぎわいに陰りが目立つようになったのは2000年頃。東京への一極集中や金融再編が活発になり、御堂筋沿道のビル1階に空室が増え始めた。もともと淀屋橋から長堀通りまでの間は、金融機関や大企業の本社ビルが集中するエリア。銀行は午後3時に、多くの企業が5時、6時にシャッターを下ろすため、夕方以降の御堂筋からは人気が消えた。 そんな中で、「沿道ににぎわいをもたらすために」と、老朽化が進んでい

たビルの建て替え議論も高まり、景観を維持するために長く守られてきた百尺制限にもメスが入った。すでに1995年に、31mだった軒高が50mまで引き上げられていたが、2007年には一部の地区で1階を公共の空間にして、50mの軒高さ確保できれば、通りから後退した場所に100m超のビルの建設も可能になるなど、なし崩し的に高さ制限が緩和されていった。 ビルの天井が揃って連なる景観は消えつつあるが、50mの軒線は今も維持されている。ビジネス街にも真新しい商業施設が目立つようになり、街には少しずつにぎわいが戻った。そしてにぎわい創出は、次の段階へと向かって

いる。 大阪市は、2019年3月に「車中心」から「人中心」の道へと空間再編を目指す「御堂筋未来ビジョン」を策定した。このビジョンは、2025年の大阪・関西万博までに御堂筋の側道を歩道化。そして次のステップで残った4車線を完全に歩道化するというものだ。かつての関市長の「常識では考えられない構想」にも引けを取らない驚きの計画だ。 このビジョンは、御堂筋をとりまく通行環境の変化に基づいてつくられたものだ。御堂筋の自動車交通量は約40年前に比べ約4~5割減少している。一方で自転車交通量は約40年前

の約6~7倍と増加傾向で、実際、歩行者と自転車が歩道内で接触する事故も多くなっている。御堂筋を歩道化する将来ビジョンは、こうした実情を踏まえたもので、側道を歩行者や自転車の空間に転換する道路空間再編はすでに一部で実現している。 ただ、これまで自動車が行っていた場所を完全に通行止めにするには、いくつもの障壁がある。沿道の商業施設への搬入・搬出や、救急車両の出入りなどは周辺の道路を含めた交通システムの再編が不可欠だ。 全面歩道化計画は、御堂筋の完成100周年である2037年をターゲットイヤーに据え、多方面に耳を傾け調整し

ながら実現を目指すとしている。 過去には、車を地下に通して歩道化を実現した道路はあるが、世界をみても4kmもの車道を全面歩道化に踏み切った例はない。もし実現すれば、人中心に設計された元メインストリートは世界に2つとないモデルとなり、次の100年も語り継がれる存在となるはずだ。 コベルコ建機公式Instagramでは、「歴史的建造物誕生の秘密を探る!」の再編集記事をはじめ、さまざまな情報をお届けしています。ぜひ、フォローしてご覧ください。 【公式】コベルコ建機 kobelcokenki\_official



## 経営のヒント

### 作業品質編

千葉県山武郡  
株式会社石井興業

# 作業品質の向上へ丁寧かつ 安全な仕事にこだわる

千葉県内を主な事業エリアとして、建造物の解体工事を手がける株式会社石井興業。同社が仕事をする上で大切にしているのは、常に丁寧に安全な仕事を心がけることだ。そのこだわりを通じて作業品質を高め、大手ゼネコンをはじめとする数多くのお客様からの信頼を獲得。大型案件の受注につなげている。

山田高広 = 取材・文 三浦泰章 = 撮影  
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura

### 現場の整理整頓を徹底し、 お客様の信頼を獲得

株式会社石井興業は、個人事業として1967年に創業。その後の78年に隣接する成田空港の開港と同時に法人化し、空港関連の仕事を手がけてきた。もともと<sup>はつり</sup>斫工事の専門業者だったが、徐々に解体工事にも進出。「近辺に解体を手がける業者がいなかったため、依頼を受けるようになりました」と話すのは、創業者で代表取締役会

長の石井準一郎さんだ。

「初めは13tや20tクラスの重機で木造家屋の解体をしていましたが、ほどなくして商業ビルといった大型建造物の解体も請け負うようになりました」(石井さん)

このようにして事業を拡大できたのは、同社が常に丁寧に安全な仕事にこだわり、作業品質を高めてきた結果にほかならない。そのことは、石井興業が手がける現場を見れば一目瞭然だ。解体現場といえば、瓦礫などがあちこ

ちに散乱している光景が普通だが、同社の場合は様子が異なる。工事現場がとにかくきれいなのだ。

「現場から出た瓦礫類は、その都度しっかり片付けるのが当社の解体スタイルです。一見、それだと工期が遅くなりそうですが、作業重視で解体していった場合でも、最後には多大な時間と労力を現場の後始末に割かなければなりません。そのため、現場を整理整頓しながら作業しても、通常より工期が早くなることはあっても遅くなるこ



船橋競馬場の観客スタンドをパワフルに解体するSK1300DLC。5階建てなら35mタイプのアタッチメントで高さを気にせず作業できる

“仕事の丁寧さと  
安全性の高さはもちろん、  
あらゆる現場で評判の良い  
スタッフの質にも自信があります”

代表取締役会長  
石井準一郎さん



◎今回の訪問先は  
株式会社石井興業  
本社所在地 / 千葉県山武郡芝山町  
大里974番地  
☎0479-78-0026

とはありません。また、現場を常にきれいにしつつ解体作業を進めることは、安全面の向上にもつながります」(石井さん)

現場の整理整頓は元請け業者からも評価されており、解体工事に関する相談も多いという。元請け業者から信頼を寄せられているというこの事実からも、同社の作業品質の高さがうかがえる。

### さらなる作業品質向上を目指し、 超大型解体機を導入

作業の品質を向上させるには、重機ラインナップの多様さも欠かすことのできない要素だ。解体対象となる建造物の高さや強度などに余裕をもって対応できる解体機でなければ、オペレータやマシンに無理を強いることになり、丁寧かつ安全な仕事を実現することは難しい。その点、石井興業ではミニから超大型まであらゆるクラスの解体機を計39台所有。解体する建造物に対して十分な能力を有する重機での

作業が可能だ。

その中でも、石井興業が2022年5月に導入したコベルコ建機の解体機SK1300DLCは、従来の100tクラスにはなかった4つ折れ超ロングアタッチメント仕様の設定により、ひとクラス上の最大作業高さ40mを実現。この超大型タイプが同社の重機ラインナップに加わったことで、解体可能な建造物の種類がさらに広がった。

取材当日、SK1300DLCは船橋競馬場(千葉県船橋市)の観客スタンド改修に伴う解体工事に従事。現場監督を務める佐々木英士さんによると、本工事がSK1300DLCにとって初めての現場だという。

「アタッチメントの高さはもちろんですが、ニブラーのパワーも十分。オペレータは余裕をもって作業できています」(佐々木さん)

一方、オペレータの加瀬正幸さんはその優れた安定性を高く評価している。「瓦礫などをつかんだ状態でアームを下げても、本体後部が浮き上がるこ

とはなく、安心して作業できます。また、アームが長いので建造物と適切な距離をとりつつ解体できることも、作業の安全性を高めていると思います」(加瀬さん)



1.アームの先には、従来の100tクラスの作業能力を大きく超える5.2t(クラス)のニブラーを装着 2.解体作業中でも機体の安定感は抜群。安全に作業可能だ

建てのため、本現場では35mタイプのアタッチメントを装着しているが、次に投入が予定されている現場は8階建て。いよいよ40mタイプのアタッチメントの出番となる。より高さのある建造物に対し、超大型建物解体機はどんなポテンシャルを発揮し、作業の品質向上に貢献してくれるのか。石井さんをはじめ、石井興業の面々の期待は高まるばかりだ。



1.入社25年になる現場監督の佐々木英士さん。「当社の強みは多様なクラスの解体機を幅広く所有し、あらゆる建造物に対応できることです」 2.SK1300DLCに搭乗する加瀬正幸さんはオペレータ歴20年。「コベルコ建機の解体機にはいろいろ乗ってきましたが、SK1300DLCの優れた安定感やパワーなどを考えると、その作業のしやすさはトップクラスだと思います」

石井興業にとって100台目のコベルコ機となるSK1300DLCの納入を記念して、感謝状を贈呈





## 経営のヒント

### 安全対策編

福岡県福岡市  
中村工業株式会社

# ゼロ災害の実現へ 100年企業の新たな挑戦

福岡県福岡市を拠点に、とび土工事を中心に多様な工事を手がける中村工業株式会社。2022年に創業117年を迎えた同社の目標は、200年企業を目指すこと。その重要な施策として挙げているのが、現場で事故を起こさないための安全対策だ。ゼロ災害を実現するために、中村工業の安全文化を継承していきたいと代表取締役の中村隆元さんは語る。

山田高広 = 取材・文 三浦泰章 (現場)、中西ゆき乃 (代表取締役・人物集合) = 撮影  
text by Takahiro Yamada / photographs by Yasuaki Miura, Yukino Nakanishi

## 現場での事故を防止すべく 自社スタッフでの作業にこだわる

中村工業株式会社の創業は、日本が文明開化を迎えた1906年。九州のとび職人たちによるプロフェッショナル集団「中村組」を前身としている。47年には株式会社として法人化。戦後の復興工事にその腕を振るうことになる。福岡銀行本店、岩田屋別館、福岡天神センタービルなど、70年代に建てられ、今でも福岡市内のランドマークとなっている大規模施設の数々も、同社のとび職人たちがその建設に関わった。

現在、中村工業の事業はとび土工事だけでなくとどまらない。重機を駆使した解体・基礎工事をはじめ、九州全域のインフラをつくる土工事、オフィスや商業施設のリニューアル工事、さらには建築部材を工場で作成して現場で組み立てるPC工事にも参入。土木から建築までを一社で手がけられる企業へと成長を遂げている。

中村隆元さんは創業から数えて5代目となる代表取締役。「200年企業の実現を見据え、企業としての石垣を固めるのが自分の使命」と話す。そこで特に力を入れているのが、事故防止のための安全対策の強化だ。安全対策といえば、ミーティングによる注意喚起を徹底するといったアプローチが一般的だが、中村工業はそれに加えて人材採用という施策も重要視している。「従業員数を現在の約200人から300人まで増やしたいと考えています。その理由は、現場のスタッフを常に自社

の従業員で固め、いつも一緒に作業するチームをつくりたいからです。それができれば、あうんの呼吸でチームワークが生まれ、作業がよりスムーズになり、事故リスクの低減も可能。安全性は飛躍的に向上します」(中村さん) 自社スタッフによる工事により安全な現場づくりを目指す中村工業では、YouTube用の動画を制作して採用業務に活用。また、新人研修時には配属先の希望を何度も申請できる機会を設けて「思っていた仕事と違った」というミスマッチの解消にも取り組むな

サッカースタジアムのスタンドに使う柱を現場で製造している。取材当日、マスターテック7120Gは型枠や鉄骨を素早くスムーズに運搬していた



こちらの二次元コードから動画をご覧いただけます



“ 自社スタッフによるチームづくりを進め、作業の連携を良くすることが私たちの安全対策。「そんなに人を増やして大丈夫か」と言われますが、安全は何ものにも代えられません”

代表取締役  
中村隆元さん



今回の訪問先は  
中村工業株式会社  
本社所在地 / 福岡県福岡市中央区舞鶴3丁目2-6  
☎092-751-9381  
<https://nakamura-k.com/>

ど、採用活動の活性化と定着率アップに寄与する施策を多彩に展開する。長く安心して働いてもらうことで、同社の安全文化を身につけ、次代へと継承してほしいという想いから、終身雇用にもこだわっている。「こうした取り組みを通じて、社員が『自分の子どもを就職させたい』と思える会社を目指しています」(中村さん)

## コベルコ製クレーンの高い操作性は 事故防止にも効果的

人材の確保とともに、安全性の向上を目指して中村工業が注力してきた施策の1つが、作業の機械化だ。81年にはクレーンをはじめとする重機を導入し、現場の効率化を推進。その利益を原資に従業員を増員し、自社スタッフによるチームづくりを進めることで、ゼロ災害の実現を目指してきた。「200人以上の人数を雇用できるのは、重機があるからこそ。機械化は当社の目指す安全対策にとって、大きな一歩でした」(中村さん)



1.足が伸ばせるほど広いキャブが特長のマスターテック7120G。長く作業しても疲れにくく、オペレータの中尾さんからも好評だ 2.中村工業では1980年より高卒者の定期採用を開始。そのため、同業他社と比べて若い従業員が多く、資格取得支援など入社後のキャリアサポートも充実。写真は新入社員研修の様子

現在、中村工業ではコベルコ建機のクローラークレーンだけでも6台を所有。なかでも一番大きな120tクラスのマスターテック7120Gはサッカースタジアムを中心にアリーナ・オフィス・商業施設・ホテルなどの周辺施設を開発する「長崎スタジアムシティプロジェクト」の建設現場で活躍中だ。「コベルコ建機のクローラークレーンはとにかく操作しやすいのが魅力です」と話すのは、オペレータの中尾康弘さん。フックの上げ下げや旋回がスムーズで微調整が利く上、イメージ通りにきっちり止められるため、より安全に作業できる点を評価しているという。「キャブが広く快適なので、ストレスが少ない点も事故の防止に役立っていると思います」(中尾さん)

取材の最後に中村さんから、より事故リスクを回避できるクレーン開発をしてほしいとの要望をいただいた。「どんなに気をつけていても、人はミスしてしまうもの。乗用車に装備されている接触防止システムなど、

ヒューマンエラーをカバーしてくれる機能を備えたクレーン開発を、コベルコ建機さんには期待したいですね」

このリクエストにどう応えるのか。コベルコの今後の開発プロジェクトから目が離せなくなりそうだ。



1.中村工業のスタッフ、販売代理店(株)マルカ福岡支店担当者と本社前にて 2.建機に乗りたくて中村工業に入社したという中尾康弘さんは、オペレータ歴25年。「現場では強い風が吹くこともありますが、ブレーキモードを使えば問題なく安全に作業できます」



マスターテック7120Gは大規模工事での稼働が多く、20tにおよぶ重量物をつる作業も日常茶飯事だ



## 経営のヒント

地域貢献編

福井県坂井市  
株式会社 森土建

# ライフラインを守るべく 地域の除雪作業に注力

創業以来、福井県坂井市を拠点に地元のインフラ整備を担ってきた株式会社森土建。地域とのつながりを重視する同社では、本業の土木工事のほかにライフラインを守る除雪作業にも従事。コベルコ建機のミニホイールローダを導入するなど、作業の効率化に取り組んでいる。

山田高広 = 取材・文 小林 修(現場)、三浦泰章(人物・社屋) = 撮影  
text by Takahiro Yamada / photographs by Osamu Kobayashi, Yasuaki Miura

### 福井県坂井市の インフラ整備に活躍

株式会社森土建は、現代表取締役の森嘉治さんのお父様が1973年に始めた個人事業を前身とする土木業者だ。メインとする事業は、一般土木工事と道路のアスファルト舗装工事。これら2つの事業を大きな柱としつつ、北陸新幹線の橋脚工事にも関わるなど、長年にわたって地元のインフラ整備に携わってきた。

森土建のモットーは、建設業を通じ

て地域に貢献すること。

「道をつくれればさまざまな企業を誘致して工場ができます。工場ができればそこに雇用が生まれ、人々の暮らしを豊かにすることが可能です」と森さん。同社は、そうした理念のもと、会社一丸となって業務を遂行し、地域の活性化に寄与している。

一般土木工事とアスファルト舗装工事に加えてもう1つ、森土建の事業に対する姿勢を表している仕事がある。それが、道路などの除雪作業だ。地元の人々が安心して暮らせるようにと、



暗い早朝からライトをつけて除雪。人々が動き出す前に作業はもう始まっている

北陸の雪国と呼ばれる福井県では、人々の生活を守る除雪作業が欠かせない



こちらのQRコードから動画をご覧いただけます

“地域に根差し愛される”をモットーに  
今後もスムーズな除雪作業で  
地域に貢献していきます”

代表取締役  
森 嘉治さん



今回の訪問先は  
株式会社 森土建  
本社所在地 福井県坂井市丸岡町  
舟寄10-3-26  
☎0776-66-5369  
<https://www.moridoken.com/>

森土建が創業以来こだわって取り組み続けてきた。福井は雪国として有名だが、なかでも坂井市は県内でも積雪量が多いことで知られ、ライフラインを守る除雪作業への需要は高い。記録的な豪雪となった2018年2月、森土建は1カ月間休みなく除雪作業に明け暮れたという。直近では21年1月と2月もかなりの雪が降ったことから車が相次いで立ち往生し、地元の人々の日常生活に影響をおよぼした。

「近年、雪の降り方が変化してきたのを感じています。夏のゲリラ豪雨のように、短時間に大量の雪が降るケースが多く、除雪作業の重要性はますます高まっています」(森さん)

森土建では、気象庁から大雪の予報が出ると、重機のオペレータに前夜から外出を控えて待機してもらっているが、誰一人として嫌がる者はいないという。「従業員すべてが地域に貢献したいという想いを共有しているからです」と、森さんは誇らしげに話してくれた。

### コベルコ建機のミニホイールローダで除雪作業を効率化

21年12月、森土建では除雪作業用にコベルコ建機のミニホイールローダLK50Zを導入した。大型と中型のホイールローダはすでに所有していたが、市道は道幅の狭いところが多く、より使い勝手の良い小型機の増車を決めたという。

ミニホイールローダLK50Zの初現場となったのは高齢者向け施設。その駐車場と周辺道路の除雪作業に、オプションの0.6㎡のスノーバケットを装着して投入された。オペレータは、入社19年になる漆崎忍さん。普段は現場監督として土木工事の現場を取り仕切っているが、21年に重機で除雪を行うための資格を取得してからというもの、自らホイールローダを駆ってオペレータとしての業務に従事している。

「福井の雪は水分を多く含んでいて重いので、小型のホイールローダではパワー不足なのではないかと思っていましたが、その心配は杞憂に終わりましたね。雪を押し出したり、持ち上げて道路脇に下ろしたりする際など、小型機とは思えないパワーを発揮してくれます。高齢者向け施設の除雪では、駐車中の車の間を縫って作業できるなど、小型だからこそそのメリットも実感。何の問題もなくスムーズに作業を完了できました」(漆崎さん)

さらに、漆崎さんは全面ガラス張りのキャブによるクリアな視界を高評価。除雪では、バケットが道路のコンクリートを削ってしまうことがないように、雪の深さなどを確認しながら作業するため、作業箇所当たる前方下部の視界の良さは作業のスムーズさに直結する。

今後、森土建では除雪用重機のための専用ヤードを新設し、さらなる設備の充実を図る予定だ。「地域社会への

貢献度を、より一層高めていきたい」と語る森さん。こうした企業の志に、これからもコベルコ建機はより良い製品開発やきめ細かいサポート体制を通じて応えていく。



1.水分量が多くて重い福井県の雪もなんのその。コベルコ建機のミニホイールローダLK50Zは、コンパクトなボディながら力強い作業性能が魅力だ 2.走行性能の高さも、LK50Zの特長の1つ。除雪作業時はもちろん、スピーディーに移動できる機動力も備えているため、現場が遠くても運転が苦にならない

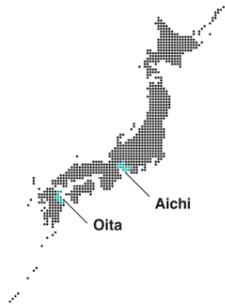


LK50Zのオペレータ、漆崎忍さんはバケットの細やかな動きを高く評価。「操作レバーの動きに対する感度も抜群で、とても作業しやすいですね」



【コベルコの風】

日本全国、そして世界各国でのコベルコの活動をレポート!



Wind 1 from  
**大分**  
Oita

「2022森林・林業・環境機械展示実演会」に出展します!

昨年の北海道での開催に続き、今年は大分県別府市で11月13・14日の2日間にわたり開催される「2022森林・林業・環境機械展示実演会」にコベルコ建機が出展します。

今年の舞台となるのが、別府市内の山あいにあるRECAMP別府志高湖。志高湖畔とその周辺の森林にブースが設置され、各社最新の高性能林業機械をはじめ、林業に関わる機具や機材等の展示・実演をします。今回、コベルコ建機が展示するのが、23年4月から順次発売を予定している新型ミニショ

ベルSK55SR-7。ミニショベル初となる“Performance × Design”シリーズの機械を間近にご覧いただけます。また、実演ブースでは林業仕様機のSK75SR-7FとSK135SR-7Fを1台ずつ用意し、実際に森林の中で伐採のデモンストレーションを行う予定です。そのほかにも、来場者の方が楽しめる体験イベントも準備していますので、ぜひコベルコ建機ブースへお越しください!

※出展機は変更になる場合があります。



北海道で開催された昨年の様子。今年も感染症対策をしっかりと施して皆様をお迎えします

Wind 2 from  
**愛知**  
Aichi

コベルコ建機日本 中部支社で3年ぶりの展示会を開催

2022年9月10・11日の2日間、3年ぶりとなる展示会「コベルコ秋の大感謝祭2022 in 中部」がコベルコ建機日本 中部支社で開催されました。

本展示会では23年4月より発売となる新型ミニショベルSK45SR-7、SK55SR-7のパイロット機をはじめ、注目度の高い超大型建物解体機SK1300DLC-10や小型テレスコピッククローラークレーンCK230SR-5など、数多くの製品をラインナップ。今回は

ベースマシンの紹介以外にも、積み込み荷重計量機能「K-LOAD」やミニショベル向け衝突軽減装置「OmniEye®」といった周辺機器ソリューションもPRしました。

また、会場では神戸製鋼所とのコラボブースを設置。コベルコ神戸スティラーズ仕様のショベルや選手の等身大パネルと一緒に記念写真を撮影される方々にぎわっていました。新型コロナウイルス感染症対策のため、



1. 大小さまざまなクラスの建設機械が一堂に集合 2. スティラーズ仕様の特別ショベルは、本展示会が初お披露目

来場制限を設けた開催でしたが、2日間ともに晴天に恵まれ、合計で1,000名を超える多くの方々にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じました。

Wind 3 from  
**コベルコ建機**  
KOBELCO

人気のゴルフマーカーが新しくなって登場!!

コベルコ建機グッズの中でもロングセラーとなっているゴルフマーカーが、このたびデザインを一新して登場します。チップタイプの2枚セットで、それぞれにショベルとクレーンがゴルフ

を楽しんでいるイラストが描かれています。グリーン上で目立つこと間違いなしのコベルコオリジナルゴルフマーカーを使って、ぜひスコアアップを目指してください!



ゴルフマーカー／1,320円(税込)



コベルコ建機ファンショップはこちら

Wind 4 from  
**コベルコ建機**  
KOBELCO

Instagram投稿企画「コベルコのある風景」を開催しています

コベルコ建機 オフィシャル Instagramでは、皆様の身近にある「コベルコのある風景」の写真を募集しています。投稿の対象は、ミニチュアや製作物、お持ちの建機の写真など、コベルコ建機に関する写真であればなんでもOK! 過去に撮影したお写真も大歓迎です。「#コベルコ建機」「#コベ

ルコのある風景」といったハッシュタグをつけて投稿いただいた素敵なお写真は、コベルコ建機SNS公式アカウントでリポストさせていただきます。皆様からの素敵なお投稿をお待ちしております!

※写真撮影の際には周囲の安全に注意し、撮影禁止・立ち入り禁止場所での撮影や、無許可で私有地を撮影することがないようお願いいたします  
※投稿を紹介させていただく際は事前にご連絡いたします



【公式】コベルコ建機 kobelcokenki\_official



Wind 5 from  
**コベルコ建機**  
KOBELCO

コベルコ建機メールマガジンの配信を開始しました

土木現場や経営に役立つさまざまな情報をお届けする、コベルコ建機メールマガジンを配信しています。最新製品・サービスの先行配信をはじめ、各地で開催される展示会情報やコベルコ

建機オリジナルグッズまで旬のトピックを毎月配信。さまざまなお役立ち情報が満載となっていますので、この機会にぜひメルマガ会員へお申し込みください!



KOBELCOメルマガ会員お申し込みフォームはこちら

Wind 6 from  
**コベルコ建機**  
KOBELCO

『重機fan Vol.7』にK-DIVEが掲載されました!

建設機械専門誌『重機fan Vol.7』(八重洲出版/10月31日発売)に、コベルコ建機の遠隔操作システム「K-DIVE」が掲載されました。その他、

小型テレスコピッククローラークレーンCK230SRや新型ミニショベルSK45/SK55SR-7の記事もあるので、重機fan最新号をぜひチェックしてください!



**さらなる開発を期待!**

業界初導入のOmniEyeのすごさ、素晴らしさを大変興味深く読みました。作業現場では欠かせない安心・安全な環境づくりのために、今後もさらなる開発を期待しています。  
長崎県 匿名希望

**宮古市の美しさを再確認**

私の住む岩手県宮古市では、毎年夏に「道の日 in 宮古」というイベントが開催されます。道路に対する市民の理解と協力を得るために、街頭パレードとクリーン作戦が行われます。今年はコロナ禍ゆえ、クリーン作戦のみ。参加してあらためて、ゴミも少なく美しい街なのだ実感しました。それにしてもあぶがった……(笑)  
岩手県・長沢産業(株) 南館 圭さん



埼玉県 匿名希望

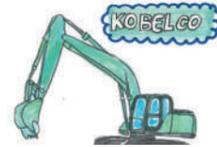
**安全装置の大切さを実感**

現場の構内で過去にフォークリフトの接触事故があり、今回紹介されていたOmniEyeのような安全装置があれば防げたのでは、と思いました。自社でも複数台の重機を所有していますので、今後の購入の参考になりました。  
また、フルサワさんの解体工事の記事は、作業内容が似ているので興味深く読ませていただきました。  
千葉県・木信産業(株) 中野貴浩さん

# 読者の広場

Fun! Fan! コベルコニュース

コベルコニュースへのご意見や、身のまわりで起こったあんなこと、こんなこと。さらに自慢のイラストやすてきな写真など、読者の皆様からのご投稿をご紹介します!



宮崎県 匿名希望

**Twitterも欠かさずチェックしています!**

コベルコニュースに加えて、最近はコベルコ建機のTwitterも楽しんでいます。コンテナにショベルを収納する動画は神ワザでした。素晴らしい投稿、楽しみにしています。  
富山県・(有) 大塚重機 大塚尚子さん

**コベルコ建機の色が好き**

いつもコベルコニュースを楽しみにしています。私はコベルコさんの建機の色が好きです。会社には古いSK007があり、とてもかわいくって、狭い所で大活躍。あちこち壊れてきていますが、修理しながらいつまでも使っていきます。  
静岡県・西伊豆貨物自動車(株) 細田光里さん



石川県・(株) 豊商 中川敬一さん



愛媛県・(株) 伊予ブルドーザー建設 久保耕介さん

**真剣な取り組み、想いが伝わってきます**

コベルコ建機OBで、神鋼グループ会社に勤務しています。30年ほど建機の製造に携わりました。間違いや不注意で凶器と化す建機の安全対策、操作性の改良など、真剣な取り組みや想いが、いつも誌面から伝わってきます。しみじみと昔のことを思い出します。  
兵庫県・コベルコシンワ(株) 細田 淳さん

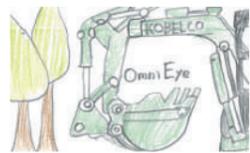
**楽しいイラスト、すてきな写真大募集!**

読者の広場は皆様からの投稿で構成しています。本誌への感想や、身近で起こったできごとなど、お気軽にお寄せください。また、同時にイラストやお写真も募集しています。採用された方には、すてきなプレゼントを進呈いたします。ぜひご投稿ください。メールでの投稿もお待ちしております。

※メールには、会社名、所在地、電話番号、氏名、匿名希望の方はその旨を必ずご記入ください  
※ご投稿いただいた内容は、本誌以外のHP、Twitterなどで掲載させていただく場合があります。予めご了承ください  
✉ Kobelconews-shm@kobelconet.com

**特設サイト「KOBELCO KENKI TOWN」**

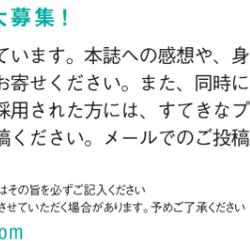
ケンキとひとが仲良く暮らす街を描いた「KOBELCO KENKI TOWN」では、2020年8月からWeb動画広告も配信しています。みんなの暮らしを陰ながら支えるケンキたちが活躍する世界を、ぜひ覗いてみてください!



岡山県 匿名希望



熊本県・(株) 活誠 喜讀宣友さん



## PRESENT

[プレゼント]

クロスワードパズル正解者の中から抽選で次の賞品を進呈いたします。ふるってご応募ください。

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます

5名様



**A賞**  
LK50Zミニチュア

ミニホイールローダLK50Zの1/32ダイキャストモデル。全長約15cm、ワイパーなど細部までこだわっています

1名様



**B賞**  
Yogibo Pyramid (ヨギボーピラミッド)

便利なサイズでどこから座っても背もたれができるピラミッド型ソファ。小さなお子様やコーナー席にぴったり

7名様



**C賞**  
ビリケン 通天閣公認品 Lucky BILLIKEN めいぐるみ

ちょっと怖い顔のビリケンさんがデフォルメされて可愛らしく。縁起物としてはもちろん、お子様にも最適

## CROSSWORD PUZZLE

[クロスワードパズル]

タテ・ヨコのカギをヒントにマス目を埋めてください。二重マス目の文字を並べ替えてできた言葉を専用はがきの解答欄(または、はがき)にご記入ください。

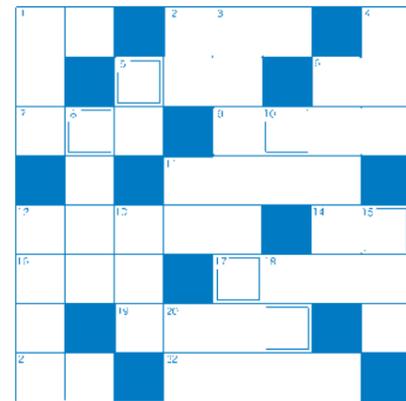
■ご応募の締め切り: 2022年12月9日(消印有効)  
■あて先: 〒141-8626 東京都品川区北品川5-5-15 大崎ブライトコア5F  
コベルコ建機(株)コベルコニュース編集室

Web応募フォームを開設しました。PC・スマホからもお気軽にご応募いただけます!



※ご記入いただいた個人情報、当選者へのプレゼントの発送と読者の投稿ページへの掲載以外の目的では使用いたしません

<https://www.kobelco-kenki.co.jp/inquiry/knews/index.php>



ヒント: 美しく整った街は、これをもとにつくられる

答え:

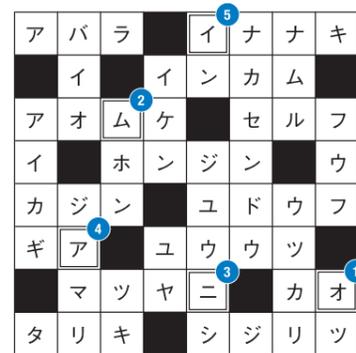
**タテのカギ**

- 〇〇〇と難波をつなぐ御堂筋
- 床に敷く厚手の敷物
- 御堂筋の冬の風物詩
- 機関車や船が蒸気の噴出で鳴らす笛
- かしわ肉とは、なんの肉?
- 幾重にも折れ曲がる坂道
- 御堂筋の並木といえば
- 〇〇印、〇〇もち、〇〇そば
- 博物館やプラモデルでおなじみの展示方法。立体模型とも
- 糸の段階で染色して織った絹織物。奄美大島や茨城県結城のものが有名
- 原因を問わず双方等しく処罰
- 魚肉のすり身を棒に巻きつけて整形し焼いたもの
- 五穀の1つ「米・麦・粟・豆・〇〇」

**ヨコのカギ**

- 体ばかりが大きくて役に立たないことのとたとえ「〇〇の大木」
- カクテル「ジン・リッキー」に使用する柑橘といえば
- ダッフルコートの棒状のボタン
- 夢を叶えるための手掛かり。主に人間関係
- お雛様の隣に並ぶ「お〇〇様」
- 月が変わり3日目頃に出る弓形の月
- 2階建ての家屋なら、2階の天井の裏側
- 競馬の騎手
- 風が吹くと〇〇屋が儲かる
- 相手の言ったことをそのまま返す「〇〇返し」
- 燃料は木炭や豆炭。コンパクトなバーベキューコンロ
- 演劇のために執筆された文学作品
- メキシコ・ユカタン半島で栄えた文明
- てきぱきしていて、そつなくこなす様。うできき

**Vol.257 クロスワードパズル 正解発表**



正解は「オムニアイ」でした。多数のご応募ありがとうございました。

**Wチャンスのお知らせ**

Vol.255～Vol.258にお寄せいただいたすべてのはがきを再抽選、50名様に記念品をプレゼントいたします。パズルへのご応募のほか、ご投稿、ご意見など、どうぞお気軽にお寄せください。  
※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます

**編集後記**

いつもご愛読いただきありがとうございます。今回、歴史的建造物のコーナーでご紹介した大阪・御堂筋。普段何気なく歩いている道が、こんなにもいろいろと考えてつくられていることを知り、「都市計画ってすごいなあ!」とあらためて思いました。  
全国各地にはまだまだ知らない歴史遺産がたくさんあります。今後紹介してほしいものがあれば、ぜひはがきやメールでリクエストをお送りください。  
季節の変わり目なので、皆さん、体調に気をつけてお過ごしください。(T.H)

コベルコ建設機械ニュース 秋季号 2022年11月 Vol.258  
発行:コベルコニュース編集室  
企画・編集:日経BP/日経BPコンサルティング/リミックス